

同窓会「マロニエ会」関東支部会開催報告

11月13日（日）大田原キャンパスにおいて、今年度の関東支部会をハイブリッド型で開催いたしました。当日は、「幹事会」、「第1期生座談会」、学科単位の「分科会」の3部制のイベントを企画いたしました。特に分科会の人気が高く、オンライン参加者、教職員、在校生も含めると、総数432名の方にご参加いただくことができました。

第1期生座談会は初めての試みでした。学科から選考された1期生に出演依頼書を送付した結果、4学科7名の1期生が出演をご快諾くださることが決まり、当日は午前中に集合いただき、簡単なミーティングを行い、座談会に臨みました。また、会場や受付準備に加え、イベントをご視聴いただくためのミーティングIDとパスコードを申込者に通知し、ハイブリッド開催に備えました。当日は、特に接続トラブルもなく、会場ではお子様連れでイベントに参加いただく同窓生の姿が多く見られました。

13時からの「幹事会」では、鈴木康裕（すずきやすひろ）学長からのビデオレターの中で、各求人先から、本学卒業生が高い評価を得ていることへの感謝と、3年後となる開学30周年に向けての協力依頼がありました。続けて、大田原キャンパス理学療法学科第1期生の上田清史（うえだきよし）代表幹事からご挨拶では、在学中の懐かしい思い出と同期



生座談会への期待、本学の建学の精神となっている「共に生きる社会」の実現を目指し、開学 30 周年、開学 50 周年でも引き続き、同窓生皆様のお力添えをお願いしたい旨のお話をいただきました。



続いて、13 時 30 分からの「第 1 期生座談会」では、大東文化大学勤務のおうれいか王麗華様（看護学科卒）、成田キャンパス理学療法学科長のにしだゆうすけ西田裕介様と那須

訪問診療所勤務のふじかわよしひさ藤川義久様（理学療法学科卒）、香川県にあるしおかぜ病院勤務のまえだゆうじ前田悠志様と本学作業療法学科教員のわたなべきよみ渡邊清美様（作業療法学科卒）、本学言語聴覚学科教員のひらたあや平田文様、千葉県旭神経内科リハビリテーション病院勤務のひらやまじゅんいち平山淳一様（旧言語聴覚障害学科卒）から在学時の思い出や現在に至るまでの苦労話などをお話いただきました。

本学へ進学した理由は、「合格通知と一緒に送付された教員一覧資料に並び、ご経歴や実績の凄さに引かれた」、「早く地元を出たかったから」など、7 人 7 様でした。在学時代の思い出では、「風花祭で、市内中のスーパーから段ボールをかき集め、教室で『食道トンネル』を作った」、「学科主催の笑（小）運動会で、体を黄色に塗ってリレーに出場。黄色に染まった構内のトイレの壁を、学科長が自ら掃除してくれた」、「20 歳の時、部活の収入を得るため、地元の成人式には出ず、大田原市の成人式の前座で吹奏楽を演奏した」など、破天荒な思い出まで飛び出してきました。

また、今後の目標として、「セラピストの働く場所を拡大させたい」、「学生時代教わったことを、これまでの自分の経験も踏まえて次世代へ伝えたい」など、先駆者としての熱い思いをお話いただきました。

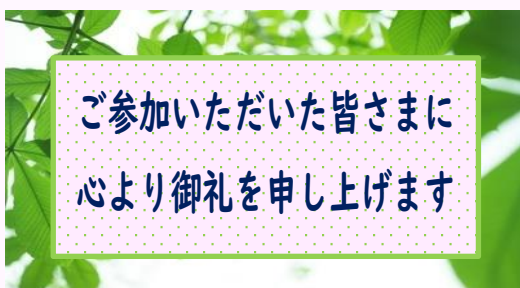
会後半では、オンラインを視聴参加くださっていた、JICA メキシコ支部
勤務の^{おおさとけいいち}大里圭一様（放射線・情報科学科 1 期生）に飛び入り参加いただき、
卒業から現在までのご活躍の話をお伺いし
ました。24 年の年月も、1 万キロの距離も
関係なく、同期生が一つにつながる様子に
胸が熱くなり、会場座席から、1 期生たち
の姿をカメラに収める同窓生や教員の姿が
たいへん印象的でした。



15 時 00 分からの分科会では、卒後研修会や特別講演会など、8 つの会
で趣向を凝らした企画が実施されました。特に懐かしい恩師の講演会は人気が
高く、多くの同窓生にご参加いただくことができました。ご参加いただいた
皆様にとって、在学時代を振り返る、懐かしい時間になったのではないかと
思います。

準備にご尽力いただいた同窓会幹事の皆さま、教職員の皆さま及び、今回
のイベントに対面参加、または視聴参加くださった同窓生の皆さまに、心か
ら感謝申し上げます。

今後とも幹事一同力を合わせて同窓会「マロニエ会」及び関東支部会の発
展に力を尽くしていきたいと思えます。引き続き皆さまのご理解とご協力をお
願い申し上げます。



看護学科分科会



ハイブリッド 分科会の様子

作業療法学科分科会



理学療法学科分科会



言語聴覚学科分科会



放射線・情報科学科分科会



視機能療法学科分科会



薬学部
分科会 &
在校生と
の茶話会



医療経営管理学科/医療福祉学科/
医療福祉・マネジメント学科分科会

